
モンスターハンター 2 ～辺境警備隊N E R V～

RAGUNAROKU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター2 边境警備隊NERV

【Nコード】

N7326D

【作者名】

RAGUNAROKU

【あらすじ】

塔に捨てられた小さな赤ん坊。この子は元気良くすくすく育ち、いつかは父親を超えるハンターになりたいと思っている。この子を巡っての争奪戦がいま、始まる！！（爆）新世紀エヴァンゲリオンとモンスターハンター2 dos のコラボレーション小説。ご覧ください。

ブローグ

雲を突き抜けて、天へと聳える遠い時代の遺物。

『塔』その最上階に位置している。

ここには、古龍と呼ばれる危険なモンスターが舞い降りる場所と化していた。

「カイザー隊長、どうしたんですか？」

ナナ・テスカトリを倒した後、剥ぎ取り最中に手を止めたクシヤナシリーズ（剣士系）で見を固めた男性隊長・カイザー・エンヴェルトを見上げる、ギルドガードスーツ蒼シリーズで身を固めた男性隊員。

「……いや、赤ん坊の泣き声がしたんでな」

その声は、若く、クールなものだった。

「赤ん坊？そんな馬鹿な、第一、ここは古龍が出現する場所なんですよ、祖龍もたまに現れますけど」

……ぎゃー！！……ほん……！！……ほん……ぎゃあ！！……ほんぎゃあ！！……ほんぎゃあ！！……

「……」

カイザーは、黙って塔の端っこにある岩の瓦礫に近付く、すると、そこには……

白い布に包まれた、白銀の髪と紫色の目、そして、白い肌を持つ小さな赤ん坊が泣いて居た。

男性隊員も近付いてくると、信じられないと言う目で赤ん坊を見る。
「なっ、何故なんですか？こんな赤ん坊がこんなところに居るなんて」

「…恐らく捨てられたのだろう、この塔に」

カイザーは、そう言った後、赤ん坊を抱き上げる。
すると、赤ん坊は泣き止み、カイザーを見上げる。

そして、笑顔になった。

キヤツキヤ！キヤツキヤ！

「…………可愛いですね」

「…こんな可愛い子供を捨てるとは」

「…許せん（ない）！！」

こんなにプリティ（死語？）な、赤ん坊を捨てた親を見てみたい、そして、縋り殺しにしたい。（をひ）

と内心呟き、黒いオーラを醸し出す二人。

赤ん坊は、そんなオーラを全く感じずにキヤツキヤ！と笑うだけだった。

こりゃ、大物になれるぞ。

「取り敢えず、『辺境警備隊NERV』本部に向かうぞ」
「了解！！」

と、塔を降りて行つた。

これが後に『ムーンライトオブハンター月光の狩人』と呼ばれることを、彼らは知らない。

プロローグ（後書き）

『辺境警備隊NERV』

5年前、研究所ゲヒルンとして古龍を調査していたが、突如、警備隊として生まれ変わってしまった。

その理由は、未だ不明。

勿論、ここには、ハンターが受けるクエストも多くある。

よって、辺境警備隊NERVに立ち寄るハンターも多く見かける。しかし、殆どのレベルがハード・G級クエストである。

「シ：けど、殆どあんたの作品って、エヴァばかりじゃん」
シンジ、どしたの？

「シ：他の二作品もまだ、完結していないんだからさ、まず先にそっちやれば？」

思い浮かばないんだよ、と言っても、この先どうすれば良いか考えてる途中。

「シ：取り敢えず頑張りなよ」
おう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7326d/>

モンスターハンター2～辺境警備隊NERV～

2010年10月15日01時22分発行